

8 2023

JIA 近畿支部 住宅部会通信



目次

表紙写真

7月例会 : AI生成画像サンプル

例会報告

7月8日 JIA 近畿支部住宅部会 7月例会

Column

透過と切断/ミースのガラスに思う事 岩田章吾

Information

23.07.08

JIA 近畿支部住宅部会 7月例会

講演会「建築設計におけるAI とパラメトリックデザインの可 能性～BIM までの関連性」

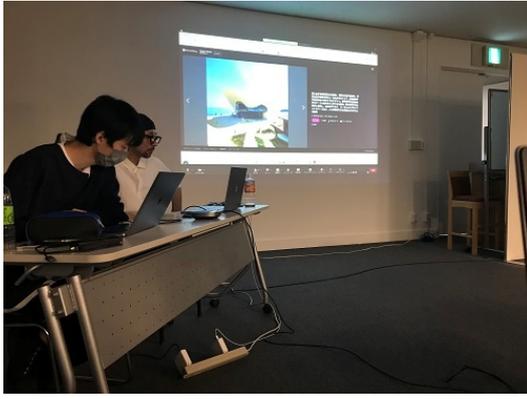
担当世話人：矢部 直輝、平居 晋

参加者：会員・スタッフ 36名 一般2名 学生1名 合計39名（内
オンライン20名）

会場：ATC ITM 棟9F IHPC 内セミナールーム

7月例会は名古屋より横関浩氏（フローワークス合同会社代表、
スタンスアーキテツク建築設計事務所代表）をお招きし、「建築設計
におけるAIとパラメトリックデザインの可能性～BIM までの関連
性」と題し、講演とワークショップを行いました。

社会的にも関心の高いAIですが、建築設計の場ではいまだ未知の技
術、禁断のツールとイメージされているように感じます。しかし、一
方で私達自身このまま知らないままでよいのか?! というリアルな危



機感の中で、ならば一度正しく現在を把握してみる機会を持つても良いのではないかと、今回の例会のテーマとして提案しました。

以下はその要旨です。

- ・コンピューティングデザインを俯瞰する中で AI とパラメトリックデザイン、BIM の現在地と今後予想される関連性、もしくはその統合性について。
- ・AI は全く新しいものを産み出すのではなく、使う側（人間）がそのきっかけを指示する事が必要で、その先の誘導の優位性も使う側が有している。
- ・現在の AI は弱い AI、それは No と言わないところ。 No と言い出す AI との出会いは、強い AI の出現を意味します。
- ・No である部分を使う側が示すことで、生成されるもの(言葉や画像)にその人間の個性が現れ他の人とは異なる結果を導くことができる。但しそれは個人の趣向をそのまま反映されるものではない場合がほとんどである。
- ・AI が社会をサポートする時代になると全体の底上げが起こりサポートを受けない人との明かな差が生まれるのではないかと予想する。
- ・AI の膨大な知識は世界の図書館と繋がっていてそれを背景にるので天才ではない一般的な使い手にとっては最適解を示せる確率がかなり上がってきているといえる。
- ・凄まじく手が動き、またそれが瞬時に、疲れを知らず、No とは言わない、限界のない、諦めない、サラリー不要のスタッフがいると思うと良いのでは?!



また会場+オンラインの参加者で実際に AI を使って画像生成までやってみる！というデモンストレーションやワークショップも行われました。

課題「海辺に建つ美術館を設計しなさい」

横関氏によるデモではコンセプト自体もきっかけとしてのキーワードを与えただけで AI(Chat GPT)にて作成し、そのコンセプトをそのまま使用し AI(Image Creator)に画像生成させるというものでした。良い悪いではなく、刺激的な方法と結果を見ることができました。以下（表紙、下部の添付画像）は参加者の皆さんによる生成画像の一部です。ここまでの作業を 20 分程度（実質は数分?!）で、しかも複数案得られた方がほとんどだったと思います。

講演会終了後の懇親会は、部会市民会員：大西さま（株式会社コーライフ）のショールームをお借りし、ケータリングによる懇親会が開催されました。講演会第二部のような感じで議論や質疑も行われまし

たが、アットホームな雰囲気、講師、参加者、関係者の皆様との親睦を深めることができたと思います。ユーライフ：大西さま、大変お世話になりありがとうございました。

例会を終えて感じる事今すぐ何か判断を必要とするものではないが、建築設計の現場でAIがもたらすであろう大きな変化の予感はあるものとして意識することができました。そして、それが非常に速いスピードで迫っていることもわかりました。私たちも無防備ではいけないのです。

尚この文章は Chat GPT による校正を受けています。

世話人：矢部直輝 平居晋



Column

透過と切断/ミースのガラスに思う事

近代建築において最も美しい Drawing は何かと問われれば、私は、迷わず、ミース・ファン・デル・ローエの「小都市のための美術館」のカラーージュ(モンターージュ)をあげる。ただ、これが Drawing と呼べればだが。というのも、この美しいカラーージュは絵画、彫刻、合板、水盤や緑といった出来合いのイメージを「ただ置くだけ」、いわゆる「描く」要素は存在しない。全く「Draw」していないこのカラーージュで、どのように建築は「描かれて」いるのだろうか？

このカラーージュはカラーージュではあるものの、キュビズム的な多視点ではなく、単点透視図的に内部空間を表現しており、下半分の空白が床として、上半分の空白が天井として表現されている。そして、二つの空白の間に張り付けられた水盤と緑のイメージが、床と天井のはざまから見える外部を表現している。しかし、ここで奇妙な点に気づく、外部を表現するこの二つのイメージが、それぞれ細い空白によっ

て分断されている点である。これは、いわゆる窓の棧が表現されたものといえるが、柱や壁を消し去り、床、天井、外部にまで還元しつつしたうえで、なぜ、副次的要素である窓棧を表現する必要があったのか？画面のプロポーションを整えるためという説明をしている研究者もいるが、建築的要素を大胆に消し去っていくプロセスを考えると、単に整えるだけというのは、説得力に欠ける。なぜ、柱も壁も消し去った空間イメージに窓棧が残されなくてはいけなかったのか？それは、開口部にはガラスが入っていること、つまり、「ガラス越しに外部を見ている」ことと示すことが、この空間表現にとって、非常に重要な意味を持っていたからではないだろうか？

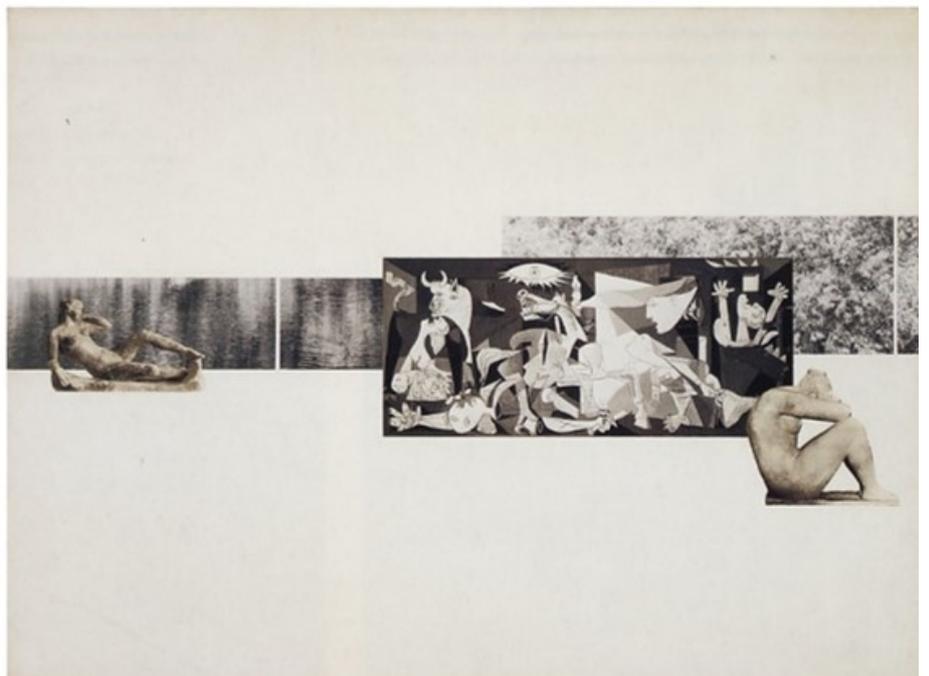
ミースはわずかな開口を除き四周を FIX のガラスで囲ったファンズワース邸について

「ファンズワース邸のガラススクリーンから自然を見れば、それは外部で見るよりより深い意味を獲得するであろう。それによって自然より多くのことを語り、より大きな全体の一部となるのだ。」

と語っている。しばしば、その架構の近似性から、日本の伝統木造建築と比較されることのあるミースの建築だが、そのように考えると、両者の相違が際立ってくる。日本建築が、内部を外部＝自然と繋がりあるものとしてとらえているのに対して、ミースの建築は、ガラスというフィルター越しの外部＝自然、「自然という他者」から隔絶しながらもそれを鑑賞するというスタンスをとっているかのようである。

「小都市のための美術館」のコラージュはペンや鉛筆によってなにも描いてはいない。しかし、そこにははっきりと一本の線が描かれている。それは、彼の建築とそれが対峙する外部、ひいては自然を視覚的につなぎながらも、領域的には相いれないものとする「透明な壁」による<切断線>である。

世話人副代表：岩田章吾



「小都市のための美術館」(1942) コラージュ

Information

- ・ 9月例会 2023年8月31日(木)
 「畑友洋さん自邸見学会」 定員となりました
- ・ 世話人会 2023年9月4日(月)16:30~17:30 @ZOOM
- ・ 2月例会 2024年2月1日(木)~2月3日(土)
 「札幌・旭川建築視察旅行」
 ~ JIA 北海道支部会員との交流
 対象は住宅部会員及びそのスタッフ
 申込フォーム : <https://forms.gle/DnzuiiCZufwpN73w6>
- ・ 「2023 秋季住宅作品展 / 第2 回住宅部会賞」
 2023年9月24日(日)~9月30日(土)
 <https://www.jia.or.jp/kinki/pickup/16967.html>

近畿支部住宅部会 :

<https://www.jia.or.jp/kinki/category/iinkai/jyutaku>

住宅部会 HP :

<http://jia-kinki.org/jyutaku/>

住宅部会 FB :

https://www.facebook.com/profile.php?id=100064617584626&ref=embed_page

住宅部会Instagram :

https://www.instagram.com/japan_architects_kinki/